

令和2年度自己評価表最終評価

【中長期目標(学校ビジョン)】

【今年度の重点目標】

岩美高生としての誇りと自覚を持ち、何事にも「誠実に対応でき、他者と「協働」して物事に取
り組み、夢に向かって「果敢」に挑戦する人間を育成する。

- 1 キャリア教育を推進し、自らの将来について主体的に考える力を養う。
- 2 部活動を推進し、健康で心身のバランスのとれた人間の育成に努める。
- 3 生徒の主体的な学びを支援し、解決する力、決断する力を身につけさせる。
- 4 多様な生徒を理解し、一人ひとりの自己肯定感を伸長する。
- 5 地域と連携した学校づくりに向けて、一層の充実に努める。

	具体的項目	令和2年度当初			評価結果(最終)		
		現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 キャリア教育の充実	進路実現	・3年生進路目標達成は100%。第1志望での合格・内定率は、90%だった。 ・2年生の2月末における進路希望未決定者は、2%（1名）である。 ・より高い志望の実現という点では、鳥取大学AO入試にチャレンジし、見事に合格した。 ・就職1年以内の離職率が2/33で約6%となり、一昨年35.3%、昨年21.9%と比べ激減した。（県平均約16.2%）	・進路目標達成率100% ・第1志望での合格・内定率90%以上。 ・2年生2月現在の進路志望未決定者5%未満。 ・就職1年以内の離職率を県平均(参考：平成30年3月卒16.2%)以下とする。	・進路選択、進路志望決定等の場面における各種ガイダンス、事業所説明会等の充実。 ・担任や進路専任による個人面談の充実。 ・定着指導の徹底を継続する。 ・高い目標を掲げ、進路決定に主体的、積極的に果敢にチャレンジさせる指導をする。	・就職希望者を対象に校内事業所説明会を計5回実施し、鳥取県東部の12社の会社概要等を生徒に伝えた。 ・新型コロナウイルスの影響で就職試験解禁が一月遅れ、指導のタイミングが例年と異なる中、粘り強い指導を行い12月上旬に全員の就職が内定。 ・新型コロナウイルス感染防止のため以下の対応を余儀なくされた ➤ 労働局主催の事業所説明会や就職ガイダンスが中止となったため校内で代替行事を実施。 ➤ インターンシップを中止し、代替の取組として「職業探求」を実施。3回にわたり6職種の方に来校してもらい、職業現場の実態を伝えた。 ➤ 定着指導のための各事業所訪問はできなかったが、電話連絡等により卒業生の状況把握に努めた。令和2年3月卒業生の1年以内の離職率は、15.6%(5/32)となり、平成31年3月卒業生の1年以内の離職率の12.1%(4/33)と比べやや増加したが、30年3月卒の18.8%、29年3月卒の35.3%と比較して低い水準で推移。（過年度データ一部修正） ・公立鳥取環境大学を3名が受験し、1名が環境学部合格した。また、今年からスタートした共通テストは、2名が受験した。 ・今年度も進路目標達成は100%であったが、第一志望での合格内定率は86.9%と目標をやや下回った。 ・2年生の進路志望未決定者は0名。	B	・継続するコロナ社会において感染防止対策を徹底しながら、オンライン等を積極的に活用して、キャリア教育の効果的な実践を目指す。 ・1・2年生への面談は継続して実施し早期の進路目標設定を促す。 ・可能な形で定着指導を実施。
2 心身のバランスのとれた人間の育成	部活動の振興	・部活動全員加入を原則としているが、年度当初時点で未加入者は2年5名、3年2名。	・全員加入の継続。 ・部活動に対する満足度が高く、忍耐力、礼儀、自己肯定感が向上している。	・部活動指導計画に基づいた適切な運営をとoshi、技術向上のみならず人間的な成長を支援。 ・部活動から逃避しがちな生徒に対する、継続、変更に向けた支援。	・2月末段階で部活動未加入者は0名。 ・学校評価アンケート(12月)では、部活動に真面目に取り組んでいる生徒が84.9%と7月より下降している。	B	・部活動の質を高めていくよう、顧問会や部長会で啓発活動を行う。
	基本的生活習慣の定着	・頭髪服装再検査者数は、月によってまちまちではあるが、クラス平均5人以内は達成できていない。頭髪については軽微な違反がほとんどであり、細かく指導していただいた結果と受け止めている。 ・12月の学校評価アンケートの生徒の回答をみると、7月と比べ挨拶や返事についての意識が高まっている。頭髪服装や日常生活のマナーの意識も例年と比べ高い。	・頭髪服装指導において再検査を受けなければならない生徒の減少。 ・挨拶、返事、頭髪服装等の基本的生活態度が良好な状態が維持され、生徒の肯定的自己評価が90%以上、職員の肯定的評価が80%以上となる。 ・TEASの取組を通して、ゴミの分別・減量化やエアコン等使用電力量の削減に意識して取り組むことができる。	・日常的な指導と定期的な全体指導の充実。 ・指導ノートの有効活用。 ・生徒・保護者への丁寧な説明と適時な連携による指導の徹底。 ・各学年、授業担当者との緊密な連携。 ・TEAS研修会の実施と時宜を得た指導の実施。	・頭髪服装検査で再検査となる生徒数は例年と変わらない(10~20%)。ほとんどが軽微な違反であり、各学年で細かく指導をしている。 ・学校評価アンケート(12月)の生徒の回答をみると、校則やマナーの厳守、挨拶や返事の意識は高い(88.6%が肯定的回答)が、朝の様子を見ると挨拶ができない生徒が増えている。 ・TEAS研修会を5月と10月に実施。12月末段階の数値を過去3年間平均と比較すると、LPG使用量は22.7%増、上下水道使用量が1.9%増、教室の可燃ごみ5%減であった。LPG使用量が増加したのは、換気のため窓を開けたままエアコンを稼働させたためだと思われる。 ・歯科検診で齲歯と診断された生徒は、52名であった。そのうち、受診した生徒は14名(10月)→21名(1月)であった。やや増加したが、それでも未受診者が多いため、改めて用紙を配布するとともに、個別指導を実施し受診を促している。 ・全校集会・学年集会・HR等、あらゆる機会を通じて感染症の予防方法（手洗いやマスク、換気など）について啓発活動を行った。	B	・学校生活の様々な場面で挨拶や返事についても、細かく指導していく。 ・可燃ゴミ減量のための指導を継続して実施する。 ・生徒の健康管理について担任、部顧問、養護教諭がより連携をとって指導にあたる。
	豊かな人間関係づくり	・SNSを通じた人間関係のトラブルが存在。 ・周囲への配慮に欠けた言動をとる生徒がいる。	・SNSの適切な利用、携帯電話等のマナーが定着。 ・周囲に配慮した言動ができる。 ・生徒にとって学校が安心で安全な場所である。	・全校集会・学年集会・HR等、あらゆる機会を通じて、ケータイ・スマートフォンの扱い方やSNSの危険性について啓発活動を行っていく。 ・情報モラル講演会等を早期に実施。	・情報モラル講演会は、新型コロナウイルス感染防止のため、研修用DVDを用いてクラスごとに実施した。 ・SNSを巡る問題は常に少なからず発生していると認識はしているが、大きなトラブルに発展した事案は発生しなかった。 ・学校評価アンケート(12月)の結果を見ると、生徒のほとんど(98.9%)が携帯・スマートフォンに関するトラブルが起こらないよう、ルール・マナーを守っている。 ・生徒が携帯・スマートフォンに頼りすぎず、相手と直接話すことを大切にしよう集会や人権LHRなどで指導を行っている。	B	・引き続き全校集会・学年集会・HR等あらゆる機会を通じて、スマートフォンの扱い方やSNSの危険性について啓発活動を行っていく。 ・生徒の抱えている背景を理解し、生徒の変化を敏感にキャッチする。特に気になる生徒は担任、教科担任、顧問、SCさらに保護者と連携を取り、人間関係トラブルに発展しないよう速やかに対処する。

	具体的項目	令和２年度当初			評価結果(最終)		
		現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
3 主体的学びの支援	基礎学力の向上	・生徒の基礎学力の向上感は約90%を超えているものの、客観的に高校学習水準に到達しているかどうかは懐疑的である。 ・家庭学習時間の通年平均は昨年より増加の傾向を示しているが、実態的には習慣化に至っていない。 ・現２年生では、２回目の基礎力診断テストにおいて、１回目の結果と比較してかなり成績が上昇した。	・課題や学校での学習の分量に応じた家庭学習が継続して行われている。 ・保護者アンケートで「家庭学習が毎日１時間以上できている」に肯定的な意見が40%以上。 ・１・２年生の基礎力診断テストにおいてD3ゾーンの生徒数が年度初めより20%以上減少する。	・リスタート学習における適切な指導。 ・家庭学習が見込まれる課題の提示と、適切な評価の実施。 ・基礎力診断テストにおいて事前事後の取り組みを行う。	・学年と連携を図りながら各教科でリスタート学習の取り組みを行った。学校評価アンケート(12月)では生徒の基礎学力の向上感は85%を超えているが職員については約56%であり、客観的に高校学習水準に到達しているかどうかは懐疑的ではあるが取組の方向性に期待感が増してきている。 ・家庭生活調査(4・8・10月：平常時)における家庭学習時間の平均は75分で(30分未満の生徒は約11%で微増)昨年同時期の平均(74分)と同程度であった。また、同調査(通年４回)の平均は95.7分であり、昨年同時期の平均(97.4分)より僅かに減少した。さらに、学校評価アンケート(12月)の保護者アンケート調査では「毎日１時間以上できている」に肯定的な評価は昨年より増加して約35%であったが設定目標を下回り実態的には習慣化に至っていない。 ・基礎力診断テストのD3ゾーンの生徒数は、１年生の国語以外は20%減を達成。基礎学力の定着とそのため学習への取組状況が一定程度改善されたものと考えられる。１年生の国語はもともD3ゾーンの生徒が少なかったこともあり変化がなかった。	B	・各教科でのリスタート学習の取り組みを全体共有して行う。 ・「家庭生活調査」の事後指導等を継続的に実施していく。 ・基礎力診断テストの結果共有、研修は新型コロナウイルス感染防止の観点から２度計画したが２度とも中止せざるを得なかった。校内職員による指導により年度内に実施し、生徒の基礎学力の把握や学力向上対策に努めたい。 ・次年度実施する研修会についても、オンラインでの実施を前提に調整し効果のあるものとしたい。
	学習指導の改善	・主体的な学びに繋がる学習支援の維持ができている。 ・授業の改善や工夫の取り組み状況は、ある程度の水準を維持しているものの、まだ意識の高揚を図る必要がある。	・授業に関する評価で肯定的な評価をする生徒が各項目とも85%以上。 ・「一人一人を大切にした指導やわかりやすい授業が行われている」と回答する保護者が80%以上。 ・授業の改善に関する職員評価で肯定的な評価が各項目とも80%以上。	・ICTの活用、ALの実践などを通じた学習意欲の喚起。 ・授業参観の促進や授業研修会を充実し、校内の学習指導改善の体制作りを進める。	・94%の生徒が授業にまじめに取り組んでいて、授業に対する各項目の肯定的な評価が５項目中１項目（絵や写真の使用）を除いて85%以上であるとともに学習指導に対する保護者の評価も86%を超えていることより、主体的な学びに繋がる学習支援の維持ができている。 ・職員の学校評価アンケート(12月)の各種研修会への参加意識は47%で昨年より低下、「生徒の主体的・協働的な学びへ繋げる授業の改善や工夫」等の取り組み状況も70%程度で設定目標を下回り、授業の改善・工夫に繋げる動きが見えにくく停滞傾向である。	C	・授業アンケートの結果を踏まえて生徒の視点から学習指導を行い、生徒の主体的な学びの維持を図る。 ・授業参観の促進や授業研修会の充実を図り、校内の学習指導改善の体制作りを進める。 ・各教科の取り組みの可視化と全体共有を図る。
4 自己肯定感の伸長	教育環境の改善	・生活満足度調査ではやればできると思っている生徒が27%いるにもかかわらず、何をやってもうまくいかない気がすると感じている生徒が、10%弱いる。 ・孤立感を覚えることがある生徒は10%弱いる。 ・岩美高版UDを意識して効果的な指導・支援に取り組んでいる教員の割合が72%。(数値は令和元年10月の生活満足度アンケート結果による)	・一人一人の生徒の自己実現を目指し、あらゆる教育活動の中で生き生きと活動できるように援助・支援する。 ・岩美高版UD意識して効果的な指導・支援に取り組む教員の割合が8割以上。	・生徒観察、個人面談や個別学習指導、保護者や関係機関との連携等に努め、個に応じたサポートを実施する。 ・生徒の自己理解、他者理解を深め、自己肯定感を高めるためのヒント等を教職員向けに情報発信する。 ・岩美高版UDチェックリストを点検し、教職員各自が取り組みやすいように改善工夫する。	・個人面談を随時実施するとともに、関係機関とは適宜連携を図っている。 ・生活満足度アンケート(10月)では、やればできると思っている生徒が35.3%（前回比+1.1%）、何をやってもうまくいかない気がすると感じている生徒が5.3%（前回比-1.7%）であった。 ・11月に「自己理解・他者理解」をテーマにした生徒講演会ならびに教職員研修会を実施した。 ・9月、12月にhyper-QU研修会を行い、集団の中で生徒を育てるための方策を学んだ。 ・学校評価アンケート(12月)の結果を見ると、UDを意識し授業の効果的な指導・支援に取り組む教員の割合は70.6%と前回より約6ポイント減少している。 ・12月に教室環境や授業のUD化、合理的配慮について学ぶ教職員研修会を実施した。	C	・日常の観察や情報共有を細やかに行い、生徒への援助・支援を実施する。 ・生徒の自己肯定感を高めるための方策を、教育活動の中で検討し進める。 ・引き続きUDを意識した指導・支援、教育環境づくりに取り組む。 ・生徒に整理・整頓の徹底を促し、集中しやすい学習環境を整えるよう指導する。
5 地域と連携した学校づくり	岩美町との効果的な連携	・地域と連携した活動に対し概ね理解が得られている。 ・岩美町内の資源や人材等の活用が大いに図られている。 ・岩美町配置の地域連携コーディネーターが廃止	・地域連携、地域貢献の取組を通して、生徒が、自らが居住する地域を支える存在であることを自覚する。 ・「地域に貢献したい」という生徒の割合が全校の8割以上	・岩美町役場等との効果的な連携を図る。 ・イワッツミッションについて講師、担当教員との協議を重ね、活動内容を充実させると同時に授業時間を確保する。	・岩美町役場および岩美町観光協会等と連携をすすめ、地域の方々の協力のもと、イワッツミッションが予定通り実施できた。今年度は類型の特徴を生かした8グループ編成とした。 ・「地域に貢献したい」という生徒の割合が前回アンケートよりも低下(肯定的回答72.4%)。新型コロナウイルスによる地域連携の機会の減少によるものか、他に起因するものか検討が必要。 ・今年度の新企画である岩美町公営塾「HOPE」は、コロナ感染防止のため8月は実施できなかったが、冬季休業中の12月に32名の生徒が出席し、3日間実施することができた。 ・昨年からの継続事業の公営英語塾「HELLO! IWATS★」は、生徒11名が参加を希望し、計16回実施することができた。	B	・イワッツミッションを通じて自己がどう変容したのかを事前事後アンケートを用いて確認し、今後の取組に生かす。 ・生徒の活動の振り返りおよび地域協力者への報告の場として、3月に成果発表会を設ける。
	授業・部活動等を通じた地域連携の実施	・地歴、体育、農業、福祉の授業、陸上競技部、野球部、ソフトボール部、バレーボール部、茶道同好会、吹奏楽部が地域と連携した取り組みを実施。 ・町内事業所の校内企業説明会の実施。	・参加した生徒の自己有用感が向上し、人間的に成長する。 ・「地域の行事や活動に参加(授業を除く)した」延べ生徒数が学校の生徒数以上 ・毎年1～2名の地元町内企業や事業所への就職者を増やす。	・生徒、職員に過重な負担がかからないように配慮しながら、可能な限り地域の要請に応える。 ・ホームページ掲載、報道機関への資料提供など情報発信に努める。 ・昨年度実施した地元企業説明会を今年も継続して実施し、参加企業を増やす。	・主に地歴公民、農業や体育の授業、総合的な探究の時間を通じて、地域の方との交流を行った。 ・報道機関への資料提供に努め、生徒の活動を広く発信している。 ・6月に町内事業所の校内企業説明会を実施した。 ・地元企業への就職者は2名であった。 ・感染症拡大防止の観点から、地域と連携した取り組みが実施できなかった(吹奏楽・茶道)。 ・女子バレー部の地域連携奉仕活動は5月と10月に実施できた。	B	・令和３年度も既に中止が決まっている地域の行事もあるが、社会情勢を判断しながら、可能な限り交流の機会を確保する。

評価基準 A：十分達成 [100%] B：概ね達成 [80%程度] C：変化の兆し [60%程度] D：まだ不十分 [40%程度] E：目標・方策の見直し [30%以下]